

「落花生」生育情報（第1報）

～ 基本技術を励行して収量増加！ ～

令和8年7月22日
千葉県農林水産部
生産振興課

※本資料は、落花生生産者へ落花生の生育情報を提供するものです。
調査時点での生育状況をまとめたものであり、本年の収量を保証するものではありません。

1 生育状況

1) 発芽状況

5月下旬から6月に台風の影響を受けるなど降雨が続き、は種作業の遅延により出芽も遅れました。

2) 開花状況

令和4年から令和7年までの高温傾向と異なり、今年の6月は平年並みの気温で推移しました。落花生研究室の調査ほ場の開花日数は、2～5日遅くなっています（表2）。

3) 地上部の生育

近年の高温傾向と異なり、5月下旬から7月上旬までの気温は平年並みで推移しました。最長分枝長は短く、地上部乾物重も軽くなっています（表1、2）。

表1 作況調査成績（7月9日調査）※対比は日数、又は平年比

品 種 名	年次	は種日	開花期	開花日数	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
千葉半立	本年	5月27日	7月7日	41日	13.3	61.7
	平年	5月29日	7月7日	39日	16.0	74.1
	対比			2日遅い	84%	84%
ナカテユタカ	本年	5月27日	7月6日	39日	11.1	47.7
	平年	5月20日	6月28日	39日	19.0	154.2
	対比			同じ	59%	31%
Qなつつ	本年	5月25日	7月6日	42日	12.0	44.0
	平年	6月1日	7月6日	35日	13.2	59.1
	対比			7日遅い	91%	75%
おおまさり ネオ	本年	5月27日	7月5日	39日	13.8	50.3
	平年	5月21日	6月30日	40日	19.4	124.1
	対比			1日遅い	72%	41%

※ 本年値は、各調査地点の平均値。「千葉半立」は千葉・印旛・香取・山武地区、「ナカテユタカ」は千葉・長生地区、「Qなつつ」は印旛・香取・長生地区、「おおまさりネオ」は千葉・印旛・君津地区。

※ 平年値は、圃場変更がない限りは過去7年間（「千葉半立」、「ナカテユタカ」、「Qなつつ」）の調査データから最大・最小を除く平均。ただし、「おおまさりネオ」は過去5年間の平均値との比較値。

※ 対比はラウンド処理をしているため、小数点以下が合わない場合がある。

表2 落花生研究室（八街市）の作況（本年の値、7月10日調査）

は種日	品 種 名	開 花 期	最長分枝長 (cm)	地上部乾物重 (g/m ²)
5月20日 (標播)	千葉半立	7月 3日 (4日遅い)	18.5 (80%)	81.5 (56%)
	ナカテユタカ	7月 1日 (4日遅い)	15.0 (77%)	74.9 (57%)
	Qなつつ	7月 3日 (4日遅い)	16.7 (77%)	74.9 (57%)
	おおまさりネオ	7月 1日 (3日遅い)	16.1 (79%)	92.8 (67%)
6月11日 (晩播)	千葉半立	7月15日 (2日遅い)	9.4 (74%)	19.5 (44%)
	ナカテユタカ	7月15日 (5日遅い)	7.0 (60%)	14.4 (34%)
	Qなつつ	7月16日 (4日遅い)	7.7 (65%)	16.9 (39%)
	おおまさりネオ	7月15日 (4日遅い)	8.6 (73%)	21.0 (44%)

*栽培密度は5,128株/10a。無かん水条件。カッコ内は、令和3年～令和7年の平均値対比を示す。

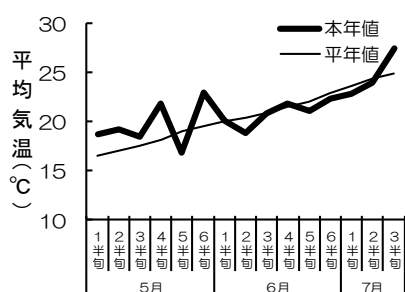


図1 半月別平均気温(アメダス佐倉)

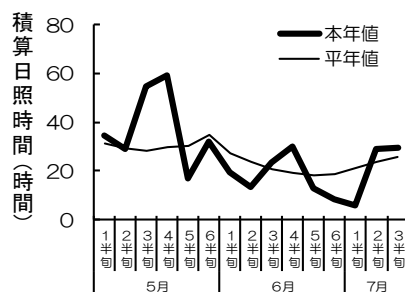


図2 半月日照時間(アメダス佐倉)

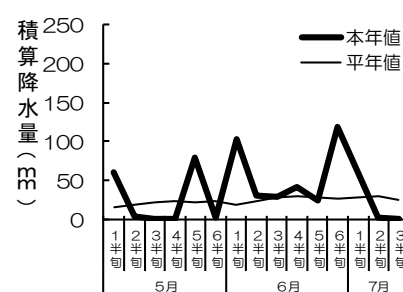


図3 半月別降水量(アメダス佐倉)

2 これからの管理のポイント

(1) 病害虫の早期発見・早期防除を徹底しよう！

7月上旬まで降雨があり、今後高温が続く予報が出ているため、以下の病害が発生しやすくなります。ほ場をよく確認し、早期防除を徹底しましょう。

(※) 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍率、収穫前日数、総使用回数などが定められています。ラベルをよく読んで、適正に使用しましょう。

「茎腐病」 茎の地ぎわ部が腐り、地上部がしおれ、やがて枯死します。発生が認められたときは、ほ場には**トップジンM水和剤、ベンレート水和剤**を散布し、被害株はすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出し処分しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内
ベンレート水和剤	2,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内

「白絹病」 高温・多湿条件下で発生しやすく、地ぎわ部が侵され白い菌糸が密生し、やがて発育不良となり、枯死します。例年発病するほ場では、フロンサイド粉剤、アフェットフロアブルを株元に散布しましょう。発病した場合は、被害株をすぐに抜き取り、表土と一緒にほ場から持ち出します。



薬剤名	使用量（倍率）	使用液量	使用時期	使用回数
フロンサイド粉剤	20kg/10a	—	収穫 45 日前まで	1 回
アフェットフロアブル	2,000 倍	100～300L/10a	収穫前日まで	3 回以内

「褐斑病」 葉に円形の斑点ができる病気で、病状が進行すると落葉します。本病は発生初期の薬剤防除効果が高いので、発生が見られたら早期にトップジンM水和剤、ベンレート水和剤等の薬剤を散布しましょう。



薬剤名	希釈倍率	使用液量	使用時期	使用回数
トップジンM水和剤	1,500～2,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内
ベンレート水和剤	2,000～3,000 倍	100～300L/10a	収穫 7 日前まで	4 回以内

茎腐病・白絹病は、連作を避け、他作物と輪作して、被害の軽減に努めましょう！

(2) 乾燥が続く場合は、十分なかん水を行いましょう

7月中旬～8月中旬は、落花生の子房柄が伸長して地中で莢が肥大する時期です。この時期に干ばつ害を受けると、空莢や未熟粒が発生し、収量が大きく減少します。

また、8月上旬以降に干ばつに遭うと、幼芽褐変症が発生しやすくなり、種子に発芽障害が生じます。そのため、乾燥が続いた場合は、以下のポイントを参考にかん水を行いましょう。

- 開花期後20日頃から、週1回を目安にかん水し、採種する場合は、開花期後40日頃にもかん水しましょう。
- 1回のかん水量は、30ミリ以上の「十分なかん水」を心がけ、土壌水分が少ない時ほどかん水量を多くしましょう。
- 土壌が極度に乾燥している場合、一度の降雨だけでは土壌に水分が行き渡らないことがあるため、降雨後も土壌の乾燥具合を見極め、必要に応じてかん水してください。
- 「おおまさりネオ」は、莢の充実期に、多くの水分が必要です。
開花期後20～60日頃にかけて定期的にかん水をしてください。

表3 播種時期ごとのかん水時期の目安（千葉半立）

播種日 (月/日)	開花期 (月/日)	1回目かん水 (月/日)	2回目かん水 (月/日)
5 / 10	6 / 24	7 / 14	8 / 3
5 / 20	7 / 2	7 / 22	8 / 11
5 / 30	7 / 9	7 / 29	8 / 18
6 / 10	7 / 15	8 / 4	8 / 24
6 / 20	7 / 22	8 / 11	8 / 31

＊令和5年度試験研究成果普及情報「気象データを活用した落花生の開花期予測モデルの開発」を活用し、アメダス佐倉の日平均気温を基に「千葉半立」の開花期を予測して算出した。

＊1回目のかん水日は開花期後20日、2回目のかん水日は開花期後40日とした。

(参考)

開花期後20日にかん水すると、稔実率が上がる。



図 開花期後のかん水有無の違いによる子実の状況（平成27年千葉県農林総合研究センター）
（ガラスハウス内枠ほ場での調査結果、開花期後40日の子実の状況）